

活 動 名	団 体 名	特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ
中高校生を被災地の役に立てる人材に育てる事業	地 域	広島県広島市
	代 表 者	代表理事 室本 けい子
	支援金額	40 万円
活動概要		
(1) 東北へのボランティア派遣(広島からの参加中高生等 8 名・引率大人 2 名) ◆8 月 7 日: 仙台到着後「せんだい・みやぎ NPO センター」を訪問、伊藤事務局長を訪ねる。震災復興における NPO センターの役割の説明を受けた。(http://blog.canpan.info/minmin/archive/537) 参照。 ◆8 月 8 日: 名取市美田園第 2 仮設を訪ねる。仮設住宅団地の草むしりや窓ふきなどをお手伝いし、龍馬塾生得意のヨーヨーのショーを披露した。その後「津波にのまれた北釜地区(仙台空港のすぐそば)の現地を是非見て欲しい」という仮設団地の高橋会長夫人のお誘いを受け、海岸沿いの松林まで出かけた。 ※協力団体: 友達 in 名取、名取交流センター協議会、美田園第 2 仮設団地、(特非)せんだい・みやぎ NPO センター ◆8 月 9 日: 岩手県被災地に移動(大槌町)を訪ねた。1 年間に 150 回被災地に通うという NPO サンガ岩手の吉田律子氏や岩手食育ネットの中村信子氏に案内してもらい、吉田氏が指導する高齢者の作業所のお手伝いをさせてもらった。 (サンガ岩手は http://www.youtube.com/watch?v=FdThe7SNWLM) 参照。 後に中村信子氏は基町まで訪ねてきてくれるところとなった(10 月 27 日)。 ◆8 月 10 日: 岩手県被災地の中でも被害の大きかった陸前高田市の市役所や、船が打ち上げられたままの宮城県気仙沼市などの様子を見学しながら仙台に戻る。 ◆8 月 11 日～12 日: 帰路途中で静岡県の発達障害児グループからの要請を受け、交流合宿及び富士山登山を行った。これは、発達障害児の親の会である『未来子育てネット静岡 中田てくてく(会員 52 名)』の親や子ども達から『龍馬塾』の子ども達が人気となり、東北の帰路を活用して一緒に合宿したいと要請を受けたものである。 ◆8 月下旬～3 月: 広島基町ショッピングセンターの店舗で写真展コーナーを設けて今回の事業の報告を行った。 (2) 広島で報告会や交流会を兼ねたコミュニティ祭『基町吊り下げ雑祭』の開催を行った。(中高生 20 名、小学生 20 名、地元の大人達は多数名、被災地等からは広島県内に避難してきている被災地出身者家族(親子 8 家族 20 名)を招待した。 ◆ 3 月 24 日開催(午前 10 時～午後 4 時) ◆ 場所: 基町団地の中央広場と集会所や商店街各店舗 ◆ 吊り下げ雑展示(宮城県名取市美田園第二仮設住民製作) ◆ 中高生達による被災地ボランティア報告(写真展も含む) ◆ 被災地福島からの短期避難してきた家族との交流、懇談 ◆ 地元基町の住民グループの表現発表会(民謡など) ◆ 子ども達の手による歓迎料理屋台の運営 ◆実施時期 8 月 7 日(仙台市: せんだいみやぎ NPO センター)、8 月 8 日(名取市: 美田園第二仮設団地及び北釜被災地区)、8 月 9 日(大槌町他)、8 月 10 日(陸前高田市他)、8 月 11 日～12 日(静岡県富士宮市)、3 月 24 日(基町団地) ◆参加人数 8 月 7 日～10 日: 13 名、8 月 11 日～13 日: 29 人、写真展: カウントできず、3 月 24 日: 100 名以上 参加総人員: 150 名		



東北へのボランティア派遣



夏期ツアー先で発達障害児の親子達と交流事業



宮城県名取市美田園第二仮設住宅より吊り下げ雑祭りが届き「つりさげひなまつり」を行った



3 月の地域イベントで、地域みなさんに焼きそばを提供する屋台を子供達が運営

◆実施に伴う効果

最も大きな効果は「子ども達に自信がついたこと」である。
一週間の旅を完遂し、東北の地を一人で行動したり、富士登頂にも成功したりという体験は、大きな自信につながったようだ。
この東北との交流事業に関してはみなさんが好意的・肯定的な眼差しを向けてくれるようである。

◆苦勞した点

外部へのPR。以下のパンフレットを作製した。



◆今後の課題・発展の方向性

- ・「作業所」の立ち上げ:子ども達の中には軽度な障害と想定される者が居る。こうした子ども達にとっては社会の受入口はまだまだ狭い。B型やA型の作業所設立を目指したい。
- ・『みんなが龍馬塾』では、子ども達の非行防止はもちろんであるが、その原因となる低学力や労働能力の低さが問題だと認識している。よって「学習支援」と「アルバイト体験支援」さらには「就労支援」を続けていきたい。
- ・広島市内からではなく県外から評判となっている。北は北海道から南は沖縄まで「しっかりとした認識を持つ福祉人やまちづくり人」から好評をいただいている。この方向は堅持して行きたい。

◆活動を終えての感想・意見等

確実に子ども達の「自信」が強くなったと感じます。
東北の地で語り、活動し、“一人旅スタイル”の単独行動で行動できるようになった子どもも出現した。
また富士登山にもチャレンジできたことは子ども達を逞しくした。
登頂挑戦者7名のうち、登頂成功者3名はいずれもタバコを吸わない子か止めた子であったことは非常に示唆的であった。